

講義コード	3J031012
講義名	フィットネス実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2411.HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

#### 目的

トレーニングには全身持久力系、筋力・筋持久力系、柔軟性系、調整力系などがある。本講座ではこれらの能力を向上させる様々な運動（ウォーキング、ジョギング、ストレッチング、補強運動など）を安全にまた効果的に行う上で必要な知識と技術を学ぶ。また、トレーニング前後に必要な体調チェックやウォーミングアップ、クーリングダウンについても実践する。

#### 到達目標

健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。  
健康運動の指導ができるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と実際
2. ウォーキングの実践①
3. ウォーキングの実践②
4. ジョギングの実践①
5. ジョギングの実践②
6. 全身持久力のトレーニング（ウォーミングアップとクーリングダウンの理論と実践を含む）
7. 全身持久力のトレーニング
8. 筋力・筋持久力のトレーニング
9. 筋力・筋持久力のトレーニング
10. 柔軟性系のトレーニング
11. 調整力系のトレーニング
12. 子供のフィットネスプログラム
13. 壮年（中年）のフィットネスプログラム
14. 高齢者のフィットネスプログラム
15. 女性のフィットネスプログラム 障害者のフィットネスプログラム

#### 成績の評価

レポート課題50% 実技試験50%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は「健康運動実践指導者」、「公認スポーツプログラマー」および「トレーニング指導

者」の認定科目となっている。

健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修しなければなりません。当該科目は、その養成講座、「10、エアロビック運動の理論と実際（実技）」の内容も含まれます。(財)日本体育協会公認スポーツプログラマーを受験する学生も、当該科目を履修しなければなりません。当該科目はその養成講座の専門科目「1フィットネス・エクササイズの理論と実際、フィットネス・エクササイズと健康管理」の内容を含みます。

#### テキスト

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康・体力づくり事業財団）

#### オフィスアワー

木曜日

12：30～13：00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	3J072012
講義名	応急処置実習
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2305.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

#### 担当教員

金井成行・津田和志・畑村育次・尾原弘恭・山口由美子

#### 目的

運動中に出現しやすい病態を把握し、その際の一次救命処置・応急処置について習得する

#### 到達目標

緊急事態に適切に行動できる者を養成

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 運動中止の判定
2. 運動中に起こる疾患（外科） 1
3. 運動中に起こる疾患（外科） 2
4. 運動中に起こる疾患（外科） 3
5. 運動中に起こる疾患（内科） 1
6. 運動中に起こる疾患（内科） 2
7. やけど、けいれん、溺水
8. 救急、救助の現況
9. 一次救命処置の手順
10. 心肺蘇生
11. AEDを用いた救命処置
12. 気道異物除去、止血法
13. テーピング 1
14. テーピング 2
15. テーピング 3

【開講期間は8月20日～24日を予定しています。】

#### 成績の評価

5人の講師による各20%配分の筆記試験、レポートを行う

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

健康・体力づくり事業団が認定する「健康運動実践指導者」、日本トレーニング指導者協会が認定する「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

## テキスト

健康運動実践指導者養成テキスト（財）健康・体力づくり事業団

## オフィスアワー

金井：月曜日（昼休み）

津田：木曜日（16時～17時診療所にて）出張で留守の時もあるので事前に確認を入れて下さい。

畑村：木曜日（1時～2時半）

尾原：水曜日13:00～17:00

山口：月曜～木曜日（12:10～13:10,16:20～17:00）

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。

## 研究室・授業用E-mail

### 研究診療棟

409研究室（金井）、405研究室（津田）、402研究室（畑村）、310研究室（尾原）、415研究室（山口）

講義コード	3J077011
講義名	画像診断学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3008
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 藤井 潤也	指定なし

#### 目的

医用画像を現場で利用できるように読影に慣れる。

#### 到達目標

変形性病変及び骨折の基本的読影ができるようにする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 肩関節
3. 肘関節
4. 手関節・手指
5. 頸椎
6. 胸椎
7. 腰椎
8. 骨盤
9. 股関節
10. 膝関節
11. 下腿・足関節・足
12. 関節リウマチ
13. 骨腫瘍
14. 実技試験
15. 実技試験

#### 成績の評価

平常点と実技試験により評価します。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

他の学生に迷惑をかけないように授業を受ける。

#### テキスト

プリント配布

講義コード	3J119012
講義名	健康づくり概論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2410.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

#### 目的

少子・高齢化、要介護高齢者の増加、生活習慣病の増加、医療費の増加など社会を取り巻く環境は大きく変化し、健康づくりの重要性はますます増加している。一方、健康づくりには運動、栄養、休養の三本柱の重要性が知られており本講座ではこれらと健康との関わりについて学ぶ。また、メタボリックシンドロームに有効な有酸素運動や高齢者の転倒防止に有効な筋力トレーニング、柔軟性を増加させるストレッチングや運動を行う上で基礎となるトレーニングの原理などについての理解も深める。

#### 到達目標

健康に関する現代社会の問題点を理解する。  
健康づくりに有効な運動の知識を深める。  
運動プログラムがつけられるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識
- 2.健康づくりのための身体活動基準2013、メッツ
- 3.健康づくりのためのトレーニングの原則、運動量と運動強度
- 4.健康づくり運動プログラム作成の基礎
- 5.ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6.有酸素運動とその効果①
- 7.有酸素運動とその効果②
- 8.レジスタンス運動
- 9.健康づくりと運動プログラムのまとめ
- 10.運動実践にかかわる社会、心理、環境的要因
- 11.健康づくりの身体の機能
- 12.健康づくりと身体の構造
- 13.健康によい運動
- 14.健康づくりと公衆衛生 健康づくりと栄養
- 15.スポーツにおける傷害と処置

#### 成績の評価

定期試験を70%、小テストを30%にて評価する。

#### 自己学習

前回までに学んだ内容の小テストを行うため、プリントや板書した内容について、十分復習すること。

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

遅刻・早退は $\frac{1}{3}$ 欠席として計算する。

#### テキスト

「健康運動実践指導者用テキスト」

健康・体力づくり事業財団

#### 参考資料

特になし

#### オフィスアワー

木曜の12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室

講義コード	3J122012
講義名	健康管理学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2304.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

#### 目的

健康管理学は人間の健康の維持・増進に関する学問である。本講座では、健康は、運動、栄養、休養の調和のとれた生活を送ることが重要であるとの考えから、運動、栄養、休養と健康に関する知識を習得する。

#### 到達目標

健康に影響を及ぼす様々な生活習慣や環境要因、健康を脅かす病気の実態についても予防医学としての視点から述べるとともに、不健康な生活は「介護予防」を早めることを理解させ、個人の健康管理が個人だけの問題ではなく、社会全体に対する問題であることも認識させる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 病気、健康、体力の概念(1)
2. 病気、健康、体力の概念(2)
3. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(1)
4. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(2)
5. 高齢化社会の傾向と現状、高齢者の健康管理
6. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(1)
7. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(2)
8. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(3)
9. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(4)
10. 運動による生活習慣病の予防効果(1)
11. 運動による生活習慣病の予防効果(2)
12. 運動による生活習慣病の予防効果(3)
13. 運動前のメディカルチェック
14. 救急時の対応(1)
15. 救急時の対応(2)

#### 成績の評価

前期の試験、ならびに授業態度により総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習、復習を行うこと。

#### 履修上の注意

「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者」の指定科目になっています。

#### テキスト



「健康運動実践指導者 養成用テキスト」  
(健康、体力づくり事業財団)  
履修希望者は必ずテキストを購入すること

参考資料

「内科学」(朝倉書店)

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後(内科外来にて15:30頃より)。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

405・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	3J159011
講義名	柔道実技
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J3-2204
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

#### 目的

柔道整復術のルーツである「柔道」について実践を通じて理解することを目的とする。  
さらに「柔道」を実践することにより人間関係の構築や礼儀作法、お互いに尊重し協力しあうことの重要性など武道の道徳的価値についても学ぶ。

#### 到達目標

安全面に十分留意することができたうえで、柔道の理合いを理解し、きちんと受け身ができ、相手を投げたり投げられたりできること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. 柔道衣の着方、礼法
3. 柔道での身体の使い方①
4. 固め技①（抑え技）
5. 固め技②（絞め技）
6. 固め技③（関節技）
7. 投げ技の原理と受け身①
8. 投げ技の原理と受け身②
9. 受け身①
10. 受け身②
11. 投げ技①
12. 投げ技②
13. 総合復習
14. 前期実技試験
15. 前期まとめ
16. 前期復習
17. 投げの形（浮落）①
18. 投げの形（浮落）②
19. 投げの形（浮落）③
20. 投げの形（背負投）①
21. 投げの形（背負投）②
22. 投げの形（背負投）③
23. 投げの形（支釣込足）①
24. 投げの形（支釣込足）②
25. 投げの形（支釣込足）③

- 26. 投げの形復習①
- 27. 投げの形復習②
- 28. 総合復習
- 29. 後期実技試験
- 30. まとめ

#### 成績の評価

実技試験（あるいはレポート：70%）を実施し、授業への取り組み度（30%）と合わせて総合評価して判定する。

#### 自己学習

体調管理や外傷防止に留意し復習すること。  
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

出席することはもちろん積極的に参加すること。  
規定の柔道衣（ゼッケン付）を着用すること。着用の無い場合は欠席とすることがある。  
衛生面には特に留意し、柔道衣はこまめに洗濯すること。

#### テキスト

特になし

#### 参考資料

特になし

#### オフィスアワー

水曜日 13:00～17:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室  
ohara@kansai.ac.jp

講義コード	3J160011
講義名	柔道整復関係法規
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J3-2203
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 廣岡 聡	指定なし

#### 目的

基礎法学、医療資格法規、医療法、社会保険などに関する法令を講義します。特に柔道整復師の資格法は重点的に講義を行い、業務がどのように担保されているのか、施術所開設の手続きなどを学び、柔道整復師として地域医療への社会貢献について考える力を養って欲しいと思います。

#### 到達目標

柔道整復師は、施術所を開設する。または施術所、医療機関、介護施設などで業務に従事すると、医療危機管理の意識、患者の利益保護、患者の意向に沿った医療提供など様々な義務や責任、コンプライアンスが求められることから医療人として社会のために何を実践していく必要があるのかを法令を通じて学び、国家試験において高い得点を取得してもらうことを目標とします。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- I. 基礎法学
  - 1.法及び法の分類
  - 2.法の体系
  - 3.罰則
  - 4.基本的人権、インフォームド・コンセント、社会保険
  - 5.医療機器管理、医療訴訟
- II. 柔道整復師法
  - 1.法の沿革
  - 2.第1章 総則
  - 3.第2章 免許<欠格事由>
    - ①行政手続法 ②行政不服審査法
  - 4.第2章 免許<登録> 第3章 試験
    - ①免許証 ②指定登録機関 ③指定試験機関
  - 5.第4章 業務
    - ①個人情報保護法 ②診療放射線技師法 ③薬剤師法
  - 6.第5章 施術所
  - 7.第6章 雑則
- III. その他
  - 1.医療法
  - 2.医事法規1<医師法、保健師助産師看護師法など>
  - 3.医事法規2<臨床検査技師法、救急救命士法など>

#### 成績の評価

筆記試験 (100%)

### 自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。  
授業資料を配布するので、事前学習をし、疑問点は質問すること。  
また、医療に関する報道などは敏感にチェックするようにしてください。

### 履修上の注意

国家試験科目であるので、覚える必要がある内容は示唆するので、しっかりチェックしてください。  
法文を読み返し勉強することは苦痛なので、授業をしっかり聴いてください。

### テキスト

「関係法規 改訂第2版」 医歯薬出版 (公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修)

講義コード	3J171012
講義名	食品栄養学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2409.HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

#### 担当教員

黒木 知美

#### 目的

私たちは食事をとることによって、生命を維持し、発育・成長し、健康を保持増進している。必要な物質を体内に取り込み、利用することを栄養といい、その仕組みについて学ぶことが栄養学である。また、スポーツに関する栄養ケアマネジメントを行えるよう、対象者について幅広く理解を深めていくことを目的とする。

#### 到達目標

生体内での栄養素の役割および代謝について学び、栄養学の全体像をつかむ。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 栄養と栄養素
2. 5大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質）
3. 日本人の食事摂取基準
4. 消化、吸収および排泄
5. エネルギー代謝と運動
6. 食品と体の成分、身体組成
7. 運動と栄養ケア（グリコーゲンの補給と回復）
8. 栄養欠陥に基づく疾病と対策（スポーツ貧血、骨障害）
9. 病態と栄養（糖尿病）
10. 病態と栄養（脂質異常症、高血圧）
11. 病態と栄養（腎臓病）
12. 病態と栄養（貧血、脱水）
13. 病態と栄養（食物アレルギー）
14. 特定保健食品、栄養補助食品（サプリメントとエルゴジェニック）やその表示
15. ライフステージと栄養

#### 成績の評価

試験（60%） レポート、ノート提出（30%） 小テスト（10%）

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。  
「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者（JATI）」「日本体育協会公認アスレティックトレーナー（AT）」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー

金曜日 16:00-16:30（管理棟2階 講師控室）

講義コード	3J202011
講義名	整復学各論Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3004
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石井 規之	指定なし

#### 担当教員

石井 規之

#### 目的

前腕部から手指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての知識の習得。

#### 到達目標

国家試験および臨床に対応する能力の達成。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. 前腕骨近位端部骨折
3. 前腕骨骨幹部骨折
4. 前腕骨遠位端部骨折
5. 手根骨骨折
6. 中手骨骨折  
指骨骨折
7. マレットフィンガー（ハンマー指）  
手指骨折の後療法について
8. 遠位橈尺関節脱臼  
橈骨手根関節脱臼
9. 舟状骨脱臼および月状骨周囲脱臼  
手根中手（CM）関節脱臼
10. 第1指中手指節（MP）関節脱臼  
第1指以外の中手指節（MP）関節脱臼
11. 近位指節間（PIP）関節脱臼  
遠位指節間（DIP）関節脱臼
12. 筋、腱の損傷  
末梢神経障害
13. その他の疾患（キーンベック病）
14. その他の手関節・手指部の変形および損傷
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験にて評価する。（80%程度）

また、課題および授業への参加態度も評価に加える。（20%程度）



## 自己学習

講義にて学習した重要事項についてテキスト上にて確認し、加えて国家試験出題問題も確認すること。

また、テキスト以外の文献も参考にし、臨床に繋がられるよう理解を深めること。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

## テキスト

「柔道整復学（理論編）」（南江堂）

（社）全国柔道整復学校協会編

「柔道整復学（実技編）」（南江堂）

（社）全国柔道整復学校協会編

講義コード	3J203011
講義名	整復学各論Ⅳ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3005
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 森岡 泰之	指定なし

#### 目的

下肢損傷は生命に関わるもの(骨盤骨折)から、日常的に遭遇するスポーツ外傷まで多岐にわたる。これら骨盤から膝関節までの人体の構造を理解し、骨折や脱臼について各損傷の発生機序、分類、症状、整復法、固定法、後療法、その他(合併症、鑑別診断)について理論を学習する。

#### 到達目標

各損傷の原理を理解し、下肢損傷に対し診断、整復、固定、後療を実施するための理論を学習し、臨床上必要な知識習得と柔道整復師国家試験合格に必要な知識を習得する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 骨盤骨骨折 1       | 骨盤の基礎と概説         |
| 2. 骨盤骨骨折 2       | 各部単独骨折           |
| 3. 骨盤骨骨折 3       | 裂離骨折             |
| 4. 骨盤骨骨折 4       | 骨盤輪骨折            |
| 5. 大腿骨近位端部骨折 1   | 大腿骨の基礎と概説・骨頭骨折   |
| 6. 大腿骨近位端部骨折 2   | 頸部内側骨折 1         |
| 7. 大腿骨近位端部骨折 3   | 頸部内側骨折 2         |
| 8. 大腿骨近位端部骨折 4   | 頸部外側骨折           |
| 大転子単独骨折/小転子単独骨折  |                  |
| 9. 大腿骨骨幹部骨折      | 骨幹部骨折            |
| 10. 大腿骨遠位端部骨折 1  | 顆上骨折/骨端線離解       |
| 顆部骨折/内側側副靭帯部裂離骨折 |                  |
| 11. 大腿骨遠位端部骨折 2  | 膝蓋骨骨折/分裂膝蓋骨(有痛性) |
| 12. 股関節脱臼 1      | 後方脱臼             |
| 13. 股関節脱臼 2      | 前方脱臼/中心性脱臼/その他   |
| 14. 膝蓋骨脱臼        | 側方脱臼(外側脱臼)       |
| 15. 膝関節脱臼        | 前方/後方/側方/回旋      |

#### 成績の評価

定期筆記試験(100%)により評価する。

#### 自己学習

対象部位(下肢)の運動器解剖学についての予習・復習  
授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は国家試験出題基準の科目となる。  
必修科目のため毎回授業で出席を確認する。  
整復学実技Ⅳと関連する科目のため、その内容を授業に取り入れる。

#### テキスト

「柔道整復学 <理論編>」 (南江堂)  
(社)全国柔道整復学校協会編  
「柔道整復学 <実技編>」 (南江堂)  
(社)全国柔道整復学校協会編  
その他必要に応じて資料を配付

講義コード	3J204011
講義名	整復学各論 V
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3006
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石床 公一	指定なし

#### 目的

下腿部から足趾部までの骨折、脱臼について学習する。

#### 到達目標

上記骨折、脱臼について、解剖学所見、発生機序、鑑別診断、後遺症、治療法などの理論的知識を身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 下腿近位端部骨折 ① (脛骨顆部骨折) 下腿部の解剖学
2. 下腿近位端部骨折 ② (脛骨顆部間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折)
3. 下腿骨骨幹部骨折 ① (脛骨単独骨折および脛腓両骨骨折)
4. 下腿骨骨幹部骨折 ② (腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿骨疲労骨折)
5. 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折 ① (回内・外転損傷、回外・内転損傷)
6. 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折 ② (回内・外旋損傷、回外・外旋損傷)
7. 足・足趾骨骨折 ① (距骨骨折)
8. 足・足趾骨骨折 ② (踵骨骨折)
9. 足・足趾骨骨折 ③ (舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折)
10. 足・足趾骨骨折 ④ (中足骨骨折)
11. 足・足趾骨骨折 ⑤ (足趾骨骨折) 足部の解剖学
12. 足部の脱臼 (ショパール関節脱臼、リスフラン関節脱臼、足趾の脱臼)
13. 下肢神経の走行と損傷
14. 臨床論 ①
15. 臨床論 ②

#### 成績の評価

前期末にマークシート試験を実施する。

#### 自己学習

予習として、教科書の講義範囲を読んでおくこと。  
授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

ノートを準備しておくこと。

#### テキスト

柔道整復学理論編



講義コード	3J207011
講義名	整復学実技Ⅲ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3105
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石井 規之	指定なし

#### 担当教員

石井 規之

#### 目的

前腕部から手指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての実技の習得。

#### 到達目標

国家試験および臨床に対応する能力の達成。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. 解剖学の確認
3. 前腕骨近位端部骨折
4. 前腕骨骨幹部骨折
5. 前腕骨遠位端部骨折
6. 前腕骨骨折のまとめ
7. 手根骨骨折
8. 中手骨骨折
9. 指骨骨折
10. マレットフィンガー（ハンマー指）
11. 手指骨折の後療法について
12. 手・指の骨折のまとめ
13. 遠位橈尺関節脱臼
14. 橈骨手根関節脱臼
15. 舟状骨脱臼および月状骨周囲脱臼
16. 手根中手（CM）関節脱臼
17. 第1指中手指節（MP）関節脱臼
18. 第1指以外の中手指節（MP）関節脱臼
19. 近位指節間（PIP）関節脱臼
20. 遠位指節間（DIP）関節脱臼
21. 手関節および手指部の脱臼のまとめ
22. 筋、腱の損傷
23. 末梢神経障害
24. その他の疾患（キーンベック病）
25. その他の手関節・手指部の変形および損傷
- 26.

## 軟部組織損傷のまとめ

27. 整復法・固定法の実技評価
28. 整復法・固定法の実技評価
29. 整復法・固定法の実技評価
30. まとめ

## 成績の評価

実技試験および定期試験にて評価する。(80%程度)  
また、課題および授業への参加態度も評価対象とする。(20%程度)

## 自己学習

講義にて学習した重要事項についてテキスト上にて確認し、加えて国家試験出題問題も確認すること。また、テキスト以外の文献も参考にし、臨床に繋がれるよう理解を深めること。  
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

## テキスト

- 「柔道整復学(理論編)」(南江堂)
- (社)全国柔道整復学校協会編
- 「柔道整復学(実技編)」(南江堂)
- (社)全国柔道整復学校協会編

講義コード	3J249011
講義名	太極拳
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2413
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 渡邊 俊哉	指定なし

#### 目的

太極拳は中国の武術の一種であるが、現在では古代の陰陽五行や東洋哲学思想に基づいて行われており、心身のバランスをとるため、その方法の一つにゆっくりと静かに動くといった特徴を持っている。また、心や呼吸を静かに整え、滑らかな動きをすることは、精神的なものばかりでなく、神経系、筋系、循環器系、呼吸器系にも影響を及ぼし、健康法としての効果も認められてきている。本講座ではこれらの効果が期待できる太極拳の理論と技術とを習得する事を目的とする。

#### 到達目標

意味を理解し、楽しめるようになる。生涯にわたって実践して行けるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 太極拳の基本①
2. 太極拳の基本②
3. 太極拳の基本③
4. 太極拳の基本④
5. 動作名：予 備 式 (ユウベイシー)
6. 動作名：起 勢 (チーシー)
7. 動作名：手揮琵琶 (ショウホイピーパー)
8. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン)
9. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン)
10. 動作名：野馬分鬃 (イエマフェンゾン)
11. 動作名：野馬分鬃 (イエマフェンゾン)
12. 動作名：単 鞭 (ダンビエン)
13. 動作名：十 字 手 (シーズーショウ)
14. 動作名：収 勢 (ショウシー)
15. 総まとめ

#### 成績の評価

実技試験と参加態度を総合評価する。  
また、必要に応じてレポート提出を求める。

#### 自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。  
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。



#### 履修上の注意

- ・太極拳を体験し、生涯にわたって親しめるようになってほしい。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用し、運動シューズを用意すること。
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理すること。
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1 / 3欠席として計算する。

講義コード	3J273011
講義名	動作分析学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2308
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

#### 目的

柔道整復師に必要な評価のひとつに、動作分析がある。患者さんの異常動作を理解するには、健康者の正常動作を理解する必要がある。この講義では、正常動作を理解し、患者さんの異常動作の特徴を理解できるように講義する。

#### 到達目標

正常動作の理解を深め、運動学的に動作を理解できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1 動作分析概論 1
- 2 動作分析概論 2
- 3 運動と現象 1
- 4 運動と現象 2
- 5 運動と現象 3
- 6 運動と現象 4
- 7 椅子からの立ち上がり動作 1
- 8 椅子からの立ち上がり動作 2
- 9 椅子からの立ち上がり動作 3
- 10 歩行動作 1
- 11 歩行動作 2
- 12 歩行動作 3
- 13 歩行動作 4
- 14 上肢挙上動作 1
- 15 上肢挙上動作 2

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。復習では、授業で勉強した解剖学、運動学の知識を再度学習する。

#### 参考資料

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

#### オフィスアワー

12 30 13 00

火曜日 : ~ :

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室

講義コード	3J705011
講義名	整復学各論VI
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3007
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 牛島 詳力	指定なし

#### 担当教員

牛島 詳力

#### 目的

柔道整復師が施術を認められている5疾患（骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷）のうち、骨折・脱臼以外の軟部組織損傷についてそれぞれの病態や特徴について学び、これまで学んだ知識をもとに、頸部・腰部の軟部組織損傷の発生機転、症状などを学んだうえで、それらを鑑別するための検査法を習得する。

#### 到達目標

捻挫・打撲・挫傷の基本的な知識を身につけ、問診から検査に至るまでの評価法の基礎を習得する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 軟部組織損傷の概要（1）
2. 軟部組織損傷の概要（2）
3. 検査法総論 問診（1）
4. 検査法総論 問診（2）
5. 検査法総論 視診、触診、各種スペシャルテスト
6. 高度な検査法：画像診断
7. 頸椎・上部体幹の外傷（1）
8. 頸椎・上部体幹の外傷（2）
9. 頸椎・上部体幹の外傷（3）
10. 頸椎・上部体幹の外傷（4）
11. 腰椎・下部体幹の外傷（1）
12. 腰椎・下部体幹の外傷（2）
13. 腰椎・下部体幹の外傷（3）
14. 腰椎・下部体幹の外傷（4）
15. 実技試験

#### 成績の評価

授業中の態度、提出物や定期試験での成績を総合して評価を行います。

定期試験（40%）＋実技試験（30%）＋検査チャート作成（20%）＋授業参加\*（10%）＝総合（100%）

\*授業参加（10%）：授業での発言、質問など、教員の主観が含まれることもあります。

追再試験について：上記成績表のうち定期試験の分が追再試験の点数の換算で置き換えられ、総合成績は60点が上限となります。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。解剖学（骨・関節・筋学）・基礎運動学を可能な限り復習しておくこと。

#### テキスト

Starkey, Brown, Ryan(2012)整形外科スポーツ障害診察ハンドブック、NAP

#### 参考資料

Magee: Orthopedic Physical Assenssment

Cook, Hegedus: Orthopedic Physical Examination Tests; An Evidence-Based Approach

Shoultz, Houglum, Perrin: Examination Musculoskeletal Injuries

#### オフィスアワー

金曜日12：10-13：10、それ以外は要アポイントメント

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

講義コード	3J708011
講義名	整復学実技Ⅳ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3005
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 森岡 泰之	指定なし

#### 目的

下肢の骨折および脱臼に対し整復学各論の理論と関連し、実際の人体各部位を把握し、各損傷に対して整復や固定、各種検査を実施する。また固定に必要な用具の作成をする。

#### 到達目標

模擬実技として骨折や脱臼の整復、各種徒手検査法を実施する。  
また、自分で固定に必要な用具を作成しその方法を習得する。  
臨床上の重要なポイントについて理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. 下肢損傷の概要   | 体表解剖/触診    |
| 2. 大腿骨頸部骨折 1 | 整復実技       |
| 3. 大腿骨骨幹部骨折  | 整復実技       |
| 4. 膝蓋骨骨折 1   | 整復実技/固定具作成 |
| 5. 膝蓋骨骨折 2   | 固定実技       |
| 6. 股関節脱臼 1   | 整復実技       |
| 7. 股関節脱臼 2   | 固定具作成/固定実技 |
| 8. 膝蓋骨脱臼 1   | 整復実技/固定具作成 |
| 9. 膝蓋骨脱臼 2   | 固定実技       |
| 10. 膝関節脱臼    | 固定具作成/固定実技 |
| 11. 復習       |            |
| 12. 試験       |            |
| 13. 試験       |            |
| 14. 応用実技 1   | キャスト固定 1   |
| 15. 応用実技 2   | キャスト固定 2   |

#### 成績の評価

実技試験(100%)により評価する。

#### 自己学習

下肢各部損傷に対する整復・固定理論についての学習。  
体表解剖の復習と実技の反復練習。  
授業 1 コマにつき 0.5 コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は必修科目のため毎回の授業で出席を確認する。

整復学各論Ⅳと関連する科目のため、その内容を授業に取り入れる。

## テキスト

「柔道整復学 <理論編>」 (南江堂)  
(社)全国柔道整復学校協会編  
「柔道整復学 <実技編>」 (南江堂)  
(社)全国柔道整復学校協会編  
実技マニュアル  
その他必要に応じて資料を配付

講義コード	3J709011
講義名	整復学実技V
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3107
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石床 公一	指定なし

#### 目的

下腿部から足趾部までの骨折、脱臼、軟部組織損傷について、整復、固定、後療法など実習する。

#### 到達目標

臨床現場で、整復・固定・後療法などが実践できる能力を身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 下肢固定材料作成 ①
2. 下肢固定材料作成 ②
3. 下肢固定実習 ①
4. 下肢固定実習 ②
5. 下腿近位端部骨折の整復実習 ①
6. 下腿近位端部骨折の整復実習 ②
7. 下腿骨幹部端部骨折の整復実習 ①
8. 下腿骨幹部端部骨折の整復実習 ②
9. 足関節部、足部の整復実習 ①
10. 足関節部、足部の整復実習 ②
11. 足関節部、足部の整復実習 ③
12. 固定・整復実技 確認チェック ①
13. 固定・整復実技 確認チェック ②
14. 臨床の実際 ①
15. 臨床の実際 ②

#### 成績の評価

整復実技、後療法、固定法など講義の中で実施させ評価する。  
後期末にマークシートの試験を行う。

#### 自己学習

整復学各論Vを復習しておくこと。  
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

実習・実技においては白衣を着用すること。

#### テキスト



「柔道整復学・理論編」

「柔道整復学・実技編」

講義コード	3J709021
講義名	整復学実技VI
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3108
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 牛島 詳力	指定なし

#### 担当教員

牛島 詳力

#### 目的

柔道整復師が施術を認められている5疾患（骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷）のうち、骨折・脱臼以外の軟部組織損傷についてそれぞれの病態や特徴について学び、これまで学んだ知識をもとに、上肢・下肢の軟部組織損傷の発生機転、症状などを学んだうえで、それらを鑑別するための検査法を習得する。

#### 到達目標

捻挫・打撲・挫傷の基本的な知識を身につけ、問診から検査に至るまでの評価法の基礎を習得する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 手の外傷（講義）
2. 手の外傷（講義）
3. 手の検査実技 1
4. 手の検査実技 2
5. 肘の外傷（講義）
6. 肘の外傷（講義）
7. 肘の検査実技 1
8. 肘の検査実技 2
9. 肩の外傷（講義）
10. 肩の外傷（講義）
11. 肩の検査実技 1
12. 肩の検査実技 2
13. 肩の検査実技 3
14. 上肢の検査総括
15. 下腿・足関節・足部の外傷（講義）
16. 下腿・足関節・足部の外傷（講義）
17. 足関節・足部の検査 1
18. 足関節・足部の検査 2
19. 膝関節の外傷（講義）
20. 膝関節の外傷（講義）
21. 膝関節の検査実技 1
- 22.

- 膝関節の検査実技 2  
23. 膝関節の検査実技 3  
24. 股関節の外傷（講義）  
25. 股関節の外傷（講義）  
26. 股関節の検査実技 1  
27. 股関節の検査実技 2  
28. 下肢の検査総括  
29. 実技試験  
30. 実技試験

#### 成績の評価

授業中の態度、提出物、定期試験での成績を総合して評価を行います。

定期試験（40%）＋実技試験（30%）＋検査法リサーチ（20%）＋授業参加\*（10%）  
＝総合（100%）

\*授業参加（10%）：授業での発言、質問など、教員の主観が含まれることもあります。

追再試験について：上記成績表のうち定期試験の分が追再試験の点数の換算で置き換えられ、総合成績は60点が上限となります。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。とくに解剖学（骨・関節・筋学）・基礎運動学を可能な限り復習しておくこと。

#### テキスト

Starkey, Brown, Ryan(2012)整形外科スポーツ障害診察ハンドブック、NAP

#### 参考資料

Magee: Orthopedic Physical Assessment

Cook, Hegedus: Orthopedic Physical Examination Tests; An Evidence-Based Approach

Shoultz, Houghlum, Perrin: Examination Musculoskeletal Injuries

#### オフィスアワー

金曜日12:10-13:10、それ以外は要アポイントメント

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

講義コード	3J710011
講義名	救急医療と看護
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2306
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし
教員	井村 弥生	指定なし

### 目的

急激な健康状態の変化や外傷により、身体の危機的状況にある傷病者の観察・アセスメントと初期対処の方法を学習する。家庭・職場・学校などで人々が社会生活を営むすべてのシーンで展開されるプレホスピタルケアを学習し、緊急時の傷病者・家族への身体的・心理的援助について学ぶ。

### 到達目標

1. 緊急時における観察・アセスメントの視点が理解できる。
2. 緊急時に悪化を防ぎ速やかに回復につなげるための対処方法が理解できる。
3. 救急時の傷病者・家族に対する援助について考えることができる。

### 授業計画表

#### 授業計画

1. 救急医療の現状と応急処置の基本 (神戸)
2. 救急医療における法律と倫理・傷病者と家族の理解 (神戸)
3. 応急処置施行者としての基本的知識と技術・災害時の対応 (神戸)
4. 傷病者の観察とアセスメントの視点 (神戸)
5. 症状別応急処置 (1) 創傷・出血 (神戸)
6. 症状別応急処置 (2) 骨・関節・筋肉の損傷 (神戸)
7. 応急処置技術 (1) 外傷時の手当 (神戸)
8. 症状別応急処置 (3) 呼吸器系の障害 (神戸)
9. 症状別応急処置 (4) 脳神経系の障害 (神戸)
10. 症状別応急処置 (5) 高温と低温による障害 (神戸)
11. 症状別応急処置 (6) 異物・中毒・咬傷と刺創 (神戸)
12. 症状別応急処置 (7) 急性腹症・その他の疾患 (神戸)
13. 症状別応急処置 (8) ショック (神戸)
14. 応急処置技術 (2) 緊急時の対応・心肺蘇生① (神戸・井村)
15. 応急処置技術 (3) 緊急時の対応・心肺蘇生② (神戸・井村)

### 成績の評価

試験80%，応急処置技術演習後のレポート20%

演習に欠席した場合は、演習後のレポート提出ができませんので、注意して下さい。

### 自己学習

各回の重要ポイントは復習しておいて下さい。バイスタンダーとして応急処置が必要な場面に遭遇したときに何か手助けができるような知識と技術を身につけてほしいと思います。

授業1コマにつき0.5コマ（180分）相当の予習と復習が必要です。復習のポイントは、各回の重要ポイントの理解を深めることです。授業を通して、バイスタンダーとして応急処置が必要な場面に遭遇したときに何か手助けができるような知識と技術を身につけてください。

### 履修上の注意

### テキスト

アトラス応急処置マニュアル 原書第9版増補版, 南江堂

### 研究室・授業用E-mail

研究室 C714

kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	3J713011
講義名	整復治療学Ⅲ（実技）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3111
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 牛島 詳力	指定なし

#### 担当教員

牛島 詳力

#### 目的

柔道整復師として必要な、骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷の後療法、特に各種運動療法を中心に学ぶ。

当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

#### 到達目標

講義→実技の流れで項目別に学習します。前期ではどのようにして後療法のプログラムを組み立てるべきかといった総論が中心です。後期では施術目的別の各論からそれぞれがプロジェクト\*で取り組んだ内容をもとに部位別、外傷別後療法の実技までを学びます。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 後療法のプログラム作成手法1
2. 後療法のプログラム作成手法2
3. 後療法のプログラム作成手法3
4. 外傷・障害時における心理と後療法
5. 組織の修復過程と後療法1
6. 組織の修復過程と後療法2
7. 関節可動域・柔軟性1
8. 関節可動域・柔軟性2（中間試験実施予定）
9. 関節モビライゼーションと牽引療法1
10. 関節モビライゼーションと牽引療法2（プロジェクト概要発表予定）
11. ストレッチング・関節モビライゼーション（実技）
12. ストレッチング・関節モビライゼーション（実技）
13. 神経—筋連動の再獲得1
14. 神経—筋連動の再獲得2
15. 神経—筋連動の再獲得3
16. Proprioceptive Neuromuscular Facilitation (PNF)1
17. Proprioceptive Neuromuscular Facilitation (PNF)2
18. PNFストレッチング、筋力強化訓練（実技）
19. PNFストレッチング、筋力強化訓練（実技）
- 20.

筋力・筋パワー・筋持久力

21. 筋力・筋パワー・筋持久力2
22. Open /Closed Kinetic Chainエクササイズ
23. バランス・平衡感覚の再獲得
24. バランス・平衡感覚の再獲得（プロジェクト：レポート提出期限）
25. バランス・平衡感覚の再獲得（実技）
26. プライオメトリックエクササイズ
27. 臨床各論1（上肢外傷の後療法実技）
28. 臨床各論2（下肢外傷の後療法実技）
29. プロジェクト発表
30. プロジェクト発表

## 成績の評価

授業中の態度、提出物や定期試験での成績を総合して評価を行います。

前期中間試験（10%）＋前期末試験（20%）、プロジェクト（レポート＋プレゼン＝20%）  
＋学年末試験（30%）＋授業参加点\*（20%）＝総合（100%）

\*授業参加点：授業での発言、質問など。

追再試験について：上記成績表のうち学年末試験の分が追再試験の点数の換算で置き換えられ、再試験該当者の総合成績は60点が上限となります。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。これまで学んだ柔道整復関連ならびに健康運動関連科目の復習しておくこと。

## テキスト

本科目に取り上げられている内容を網羅した1冊のテキストというのはありません。講義の際に適宜配布資料などを用意する予定です。

## 参考資料

Kisner & Collby (2007) 最新運動療法大全第5版、ガイアブックス社  
奈良勲、黒澤和生、竹井仁 (2007) 系統別治療手技の展開第2版、共同医書出版  
Hedin(2011) PNF基本的手技と機能的訓練、医歯薬出版  
他講義にて紹介の予定。

## オフィスアワー

金曜日12:10－13:10、それ以外は要アポイントメント

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

講義コード	3J720011
講義名	医療英語
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1310
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 牛島 詳力	指定なし

#### 担当教員

牛島 詳力

#### 目的

昨今の急速な国際化により、医療関係者が海外の学会などに参加する、もしくは留学するなどの機会も増加しています。国内においても、臨床の場でのコミュニケーション能力として医療関係者の英語力が必要とされる機会が増えてきました。本科目では、医療・科学分野での情報収集 (input) のための読解力だけでなく、臨床の場での基礎的なコミュニケーション (input-output) のための会話力を含めた、医療関係者の米国大学院留学も視野に入れた総合的な英語力の向上を目指します。

#### 到達目標

ボキャブラリー：前期は授業ごとに、医学用語を中心とした単語の小テストを行い、医療人として知っておくべき単語を学習します。  
 文法・表現法：中学・高校で学んだ基礎を実践で再確認しながら学習します。  
 リーディング：運動器の外傷、スポーツ医学や健康科学に関する英文の記事を読み、内容を把握する練習を行います。  
 コミュニケーション：前期は患者さんとの会話、問診の方法を、後記は文章での表現法を学習します。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 英語学習の必要性、Be動詞、単純過去形と副詞の復習
2. 英文記事読解 1 (～200語)
3. 英文記事読解 1 (～200語)
4. 数と量、現在完了形・過去完了形と単純過去形
5. 英文記事読解 2 (250-300語)
6. 英文記事読解 2 (250-300語)
7. 英文記事読解 2 (250-300語)
8. 冠詞 (a or the)
9. 英文記事読解 3 (250-300語)
10. 英文記事読解 3 (250-300語)
11. 仮定法、レポート概要発表
12. 前置詞 (for or to)、形容詞、動名詞かto+動詞の原型か？
13. 関係代名詞、助動詞
14. 問診のための英会話 1
- 15.



## 問診のための英会話2

16. 英文記事読解4 (400-500語) レポート提出期限
17. 英文記事読解4 (400-500語)
18. 英文記事読解4 (400-500語)
19. 英作文の基本、作文課題発表
20. 英文記事読解5 (600語+)
21. 英文記事読解5 (600語+)
22. 英文記事読解5 (600語+)
23. 英文記事読解5 (600語+)
24. 作文課題途中経過確認
25. 英文記事読解6 (600語+)
26. 英文記事読解6 (600語+)
27. 英文記事読解6 (600語+)
28. 英文記事読解6 (600語+)
29. 英文記事読解6 (600語+)
30. 作文課題提出期限

## 成績の評価

授業中の態度、小テスト、定期試験での成績を総合して評価を行います。

ポキャブラリー小テスト (30%) + 前期試験 (15%) + 前期授業参加\* (5%) + レポート課題 (20%) + 作文課題 (30%) + 後期授業参加\* (5%) = 総合 (100%)

\*授業参加：授業での発言、質問など。

追再試験について：上記成績表のうち定期試験の分が追再試験の点数の換算で置き換えられ、総合成績は60点が上限となります。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。英語に触れる機会を増やしておく (洋画DVDを英語音声・英語字幕で見るなど)。

## 履修上の注意

英和辞典は授業時に持参することが望ましい。電子辞書は授業への持ち込みは認めますが、小テスト、定期試験などでの使用は認めません。英和辞典のほかに、医学辞典の購入を推奨します。

## テキスト

クラスの能力に応じて、運動器の外傷、スポーツ医学、健康関連の英文記事を適宜配布して授業を行います。

## 参考資料

英和辞典：中辞典 (1800~2000頁) と呼ばれるものが望ましい。

医学事典：購入することをお勧めしますが、本学図書館での閲覧で間に合うように配慮はしています。

## オフィスアワー

金曜日 12:10-13:10、それ以外は要アポイントメント

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

講義コード	3J736011
講義名	リスクマネジメント論
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2307
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

#### 目的

柔道整復師の業務を中心に医療機関やスポーツの現場など様々な場面で発生する事故（アクシデント）や事故に結びつく可能性のある事象（インシデント）について分析と評価を通じて、リスクマネジメントの在り方や、具体的な対処や防止方法に関する知識を習得する。

#### 到達目標

医療機関やスポーツ現場などでのリスクマネジメントについて理解し、事故防止ができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. リスクマネジメントの概要
2. インシデントとアクシデント
3. 病態の把握、医師との連携
4. 頭部外傷におけるリスクマネジメント
5. 体幹部外傷におけるリスクマネジメント
6. 四肢外傷におけるリスクマネジメント
7. 物理療法におけるリスクマネジメント①
8. 物理療法におけるリスクマネジメント②
9. 感染に関するリスクマネジメントの概要
10. 病原微生物と感染防止
11. 感染予防①
12. 消毒・滅菌①
13. 消毒・滅菌②
14. 訴訟に関するリスクマネジメント
15. まとめ

#### 成績の評価

筆記試験により評価して判定する。（100%）

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

※特に「整復学総論」「整復学各論」「衛生学・公衆衛生学」で学習した関連する領域を復習しておくこと。

#### 履修上の注意

指示されたテキストの他、配付された資料は毎回持参すること。

#### テキスト

「柔道整復師のための医療安全学」(南江堂) 櫻井康司、田淵健一、成瀬秀夫、山口竜彦 共著

「柔道整復学 理論編」(南江堂) 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

「衛生学・公衆衛生学」(南江堂) 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

#### 参考資料

「リハビリテーション医療における安全推進のためのガイドライン」(医歯薬出版) リハビリテーション医学会編

「医療従事者のための医療安全対策マニュアル」

<http://www.med.or.jp/anzen/manual/pdf/honbun.pdf>

日本医師会

「感染の理解と消毒・滅菌の看護へのいかしかた」(医歯薬出版) 富野康日己編

#### オフィスアワー

水曜日 13:00~17:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

ohara@kansai.ac.jp

講義コード	3J739011
講義名	リハビリテーション論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J3-2107.T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

#### 担当教員

鬼形周恵子

#### 目的

リハビリテーションの理念に基づき、社会的な貢献を実現するにあたって多くの方法がある。本講義では、リハビリテーションの定義や障害分類などの基本的な知識と医学的リハビリテーションの具体的な考え方やリハビリテーションの方法について学習し、理解することを目的とする。

#### 到達目標

リハビリテーションの概要を把握し、疾患別のリハビリテーションへの導入をスムーズにできるようになること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. リハビリテーションの概念
2. 障害学①（総論）
3. 上肢・体幹の機能解剖
4. 下肢の機能解剖
5. 障害学と治療学①（関節拘縮と変形、関節可動域練習）
6. 障害学と治療学②（神経麻痺、筋萎縮、筋力増強訓練）
5. 評価学①（総論）
6. 評価学②（身体計測）
7. 評価学③（関節可動域測定法）
8. 評価学④（徒手筋力検査法）
9. 評価学⑤（中枢性運動障害の評価法①）
10. 評価学⑥（中枢性運動障害の評価法②）
11. リハビリテーションの治療（理学療法①）
12. リハビリテーションの治療（理学療法②）
13. 物理療法
14. 補装具
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験によって評価する。（100%）

## 自己学習

授業内容と関連した範囲の解剖学や生理学などをしっかり復習すること。  
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

## 履修上の注意

日本トレーニング指導者協会認定の「トレーニング指導者」の指定科目になっています。

## テキスト

リハビリテーション医学 改訂第三版：全国柔道整復学校協会監修「南江堂」

## オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10～13:00

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階D719研究室（吉田）・t.yoshida@kansai.ac.jp